



ここから、
日本を動かす。

託された国民の未来

～「休眠預金の活用」で課題を解決していく～

■ 付託された重み

51回総選挙が終わりました。思いもよらないタイミングでの短い準備期間でバタバタの中で始まり、終わってしまいました。

毎回強く思うことですが、選挙は一人ではできません。今回も本当に多くのボランティアの皆さんに支えられて進めることができました。お支えいただいた方々には感謝の思いしかありません。

また、駅頭などでは「頑張れよ」とお声掛けをいただきましたが、目の前の選挙はもちろんのこと、本当に頑張らなくてはならないのは当選してからだ、ということを考えさせられました。

「投票してきました」の後に、「日本の未来をお願いします」「私たちの生活をあなたに託します」などの言葉が続くと、国会議員は国民の代弁者だということを痛感します。

■ 政党選挙で誰を見ているのか

小選挙区制における選挙も11回目となり、当初想定した政党選挙が浸透してきたのではないかと今回の選挙で感じました。

私たち自民党は高市総理人気が追い風となり、多くの議席をいただくことができました。一方、中道では選挙の強いベテランでも苦戦した候補が多く、選挙区では我が党の新人に苦杯をなめるといったところも出てきました。平成21年の時の政権交代が可能な選挙制度なのですが、候補者の立場から言わせてもらうと、どこまで有権者に候補者本

人を見てもらっているのだろうかと少し寂しい気持ちにもなります。

政治家の力量や今までの経緯、実績、地元のための貢献度などがどれだけ有権者の投票行動の基準になり得ているのか。人間としての政治家ではなく、「その組織（党）に所属していれば誰でもいい」という評価が上回っている気がしました。

とは言え、これが世の中の流れ、この中で個人を見てもらえるよう努力していくしかありませんし、少なくともこの選挙期間中に言葉を交わした人々の想いを受けて、たとえ私の自己満足に過ぎなくても、社会に必要なことは、精一杯取り組んでいきます。せっかく議員という立場をいただいているので、自分が悔いなきように。

■ 休眠預金の活用

これは私の取り組むべきテーマの一つで、平成28年に公布された議員立法です。私は議



前防災担当大臣 国家公安委員長

国土強靭化・海洋政策・領土問題等担当大臣

衆議院議員 さかい学 事務所

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3922 戸塚ビル3階

☎ 045-863-0900 FAX 045-865-6700

メール info@sakaimanabu.com



(表面より続く)

連のメンバーとして設立当初から関わっていて、現在は事務局長を担っています。

私たちが金融機関に預けたままにしている預金は金融機関の所得になっていましたが、それを社会課題解決のために使おう、しかも課題として認識はするものの、資金的に充分でなく、動けない場合も多々ある民間の活動を支援し、民間の知恵を導入するべきということで、「民間公益活動」に助成・出資しようという中身の法律です。

実際に動き始めて成果も出始めていますが、世界でも珍しい取り組みです。様々な改善点も見えてきて、それに対応しながら議連も動いてきました。出資に関してはまだ動き始めたばかりですが、税との関係で整理が必要と思われる点が出てきています。

また、現場の団体からは、「新しく認識された課題に対応できる仕組みになっていない」と指摘も受けていて、これも対応が必要な点の一つです。この休眠預金を活用した取り組みが、その後の社会変化まで起こすようなインパクトを持って欲しいと思いますし、日本では社会課題の解決を目的とした民間組織である「ソーシャルセクター」の層が薄いと言われており、確かにそうだと思われます。ここを少しでも人材の層を厚くできることは、日本社会の底力にもつながると私は思っています。

■ 将来を見据えた助成

そして休民預金で助成するときに大切にしているのは自立です。

最初の3年間は助走期間を含めて結果を出す

さかい学⑥ にっぽん考 第270-1

にも時間がかかります。その中でそのプロジェクトの大切さを共感してもらったり、団体そのものを信用・信頼してもらうのは難しいと思います。そのため、その部分は後押しをする。しかし、その後、本当に社会課題の解決につながり、評価されるものであれば、今の世の中、必ず支援者や仲間が出てくるものだと思うので、その人たちとプロジェクトを自立させて、休民預金の資金なしでも進められる形にプラスアップして欲しいと考えています。支援は最初の3年間、あとは伴奏支援をしながら共に自立の道を目指してもらう、というように。

東日本大震災の後、多くのNPOが被災地に入ってきました。そして様々な事業を開拓しましたが、政府が補助金を引き上げると次々と撤退しました。多くは「こんなに地元に必要なことをしているのに、補助金を切るなんて国はひどい」と言いながら。

しかし、本当に必要な活動なら、誰かが手を挙げるなりして地元と話をして残す方法を模索するはずです。つまり、そこまでではなかったのではないか。全てがそうだとは言いませんが、そういう事例が散見されたので、休民預金の制度では、それを大きな課題として、毎日の取り組みと3年後の自立を見据えての活動をお願いしています。機会があれば、具体的な取り組みの一端を紹介します。

私の衆議院議員7期目が始まります。全力を尽くしてまいります。

さかい学の活動報告



地元の防災イベントに自衛隊を誘致し、その活動の理解促進を図る



毎月行われている地元の朝市で、農家さんと野菜談義